

生演奏で楽しむ音楽科

～心豊かなひと時～

<第6回講義 声楽の魅力 ③ソプラノ>

- ・日時 2023年6月30日(金) 午前10時～12時
- ・場所 池田市ナムの広場
- ・講師 大阪音楽大学講師 熊本 佳永(ソプラノ歌手)
(大阪音楽大学演奏員 竹村 美和子(ピアニスト))



熊本 佳永先生

講義内容

<ソプラノは好き?>と題して、「月」「女」「愛」のテーマ分類に従って、歌詞の意味を解説しながら全12曲のソプラノ曲の歌唱を聴かせていただいたほか、ピアノ独奏(ドビュッシーの「月の光」)があった。

「ソプラノ」は、混声四部合唱(コーラス)において一番高い音域(パート)をいう。

高い方の音域から順に、「ソプラノ」→「アルト」→「テノール」→「バス」と呼ばれる。

この四パートをさらに細分する場合があります、「ソプラノ」を「ソプラノ1とソプラノ2」としたり、「バス」のパートを「バリトンとバス」とすることがある。



1. 「月」をテーマとする曲

(1) フォーレ作曲『月の光』

フランスの詩人ヴェルレーヌの詩にフォーレが曲をつけた。

(2) ドビュッシー作曲『月の光』(ピアノ独奏)

フォーレの「月の光」に影響を受けて、ドビュッシーがこのピアノ曲を作曲したといわれている。

(3) プーランク作曲『ハートの女王』

歌曲集「短いわら」の中にある曲

(4) プーランク作曲『4月の月』

歌曲集「偽りの婚約」にある曲で、歌詞は平和な未来を描く内容。

2. 「女」をテーマとする曲

(1) マリー・アントワネット作曲(作詞も)『哀れなジャック』

「あなたがいなくなった今は、この世のすべてを失ってしまった…」のような歌詞で、マリー・アントワネットが作曲したと言われる。(彼女の立場を思うと、単純に悪女とも言うには可哀そうない面もある。)

(2) ルーセル作曲『或る賢い妻の返事』(中国の古い詩を翻訳した詩にメロディをつけたもの)

あなたは私が人妻であると知りながら…、しかし夫婦の絆は永遠に断ち切れない。私はもっと早くあなたと知り合えばよかった。(心の動揺を表すような不安定な音程)

(3)プーランク作曲『ザ・ヴァイオリン』(不安定なメロディで、不安な気持ちを表現)

酔っぱらった女が「ああ、タバコ吸いたい」など…という。

(4)プーランク作曲『オテル』(「ホテル」のこと)

ひと仕事終えた女優が自室に戻って「ああ、きょうはもう仕事をしたくない」など…と。

(舞台上、「もうアンコールを受けたくない」ときに、「この曲で最後」という合図として使われる。)

(5)プッチーニ作曲『私の名はミミ』(オペラ「ラ・ボエーム」の中のアリア)

相手役のロドルフォが自分のことを紹介したあと、「今度はあなたのことを教えて」…と。

お願いされたミミは自分について話し始める…という内容。

3.「愛」をテーマとする曲

(1)越谷達之助作曲『初恋』

石川啄木の歌集「一握の砂」の短歌を歌詞として作曲。

(2)プーランク作曲『愛の小径』

プーランクの曲の中で、唯一シャンソンに分類されている曲。

(3)フォーレ作曲『牢獄』

ヴェルレーヌの詩をもとに作曲されたもの。堀口大学による日本語訳もあるが、原詩で歌われることが多い。

(4)マルティーニ作曲『愛の喜び』

表題は「愛の喜び」であるが、歌詞の中味は「愛の喜びは一瞬の輝きで、愛の悲しみは一生続く」とあり、結婚式のお祝いの歌と誤解して使われていることがある。メロディが美しいので、フランス語やイタリア語でもよく歌われている。エルヴィス・プレスリーのヒット曲「好きにならずにいられない(Can't help Falling in Love)」はこの曲が原曲となっている。

4. 全員での斉唱

講義の締めくくりとして、熊本先生のご指導をいただきながら、『おお、シャンゼリーゼ』を全員で斉唱した。



竹村美和子先生

(ドビュッシー作曲「月の光」のピアノ独奏)